

	<p>大阪大学 保健系分野（看護学・医療技術学、学際・特定） 【保健系・小児発達学】</p>
<p>学部・研究科名</p>	<p>医学部保健学科 看護学専攻（第1年次：80名、第3年次：10名） 放射線技術科学専攻（第1年次：40名、第3年次：5名） 検査技術科学専攻（第1年次：40名、第3年次：5名） 医学系研究科保健学専攻（M：65名、D：23名） 大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科（D：15名）</p>
<p>沿革・設置目的</p>	<p>大阪大学看護学校、大阪大学医療技術短期大学部を経て、平成5年、総合的に看護学及び医療技術科学の教育・研究を行うことを目的として、医学部保健学科として設置された。</p> <p>「人材育成」と「こどものこころの障害の原因解明と新規治療法の開発研究」を目的として、平成21年度に設置された大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究科を経て、平成24年度に大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科が設置された。</p> <p>昭和24年（1949年） 新制大阪大学設置 昭和42年（1967年） 大阪大学医療技術短期大学部を設置 平成5年（1993年） 大阪大学医学部保健学科設置 平成10年（1998年） 大学院医学系研究科保健学専攻（修士課程）設置 （平成12年（2000年）に博士後期課程を設置 平成16年（2004年） 国立大学法人に移行 平成21年（2009年） 大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究科を設置 平成24年（2012年） 大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科を設置</p>
<p>強みや特色などの役割</p>	<p><保健系分野> ○ 大阪大学の理念等に基づき、看護学・放射線技術科学・検査技術科学の各分野において、高度の専門知識・技術を身につけ、先端研究に参加する中で心身の健康増進を図るための学問的進歩を先導し、国際的に指導性を発揮できる基礎的研究能力を備えた医療人の育成を目指す。</p>

○ 大学院研究科では、統合保健看護科学・医療技術科学の各分野において、現場の実践向上に貢献でき、健康医療施策の立案に関与し活躍できる国際的な研究力を有する人材を養成する。特に、国際交流を基盤に、看工連携、双生児研究など独創性の高いプロジェクト研究を活かした教育等の取組を積極的に推進する。

○ 国際双生児研究拠点としてのツインリサーチセンターや看護・工学の連携研究、糖鎖遺伝子を用いた検査・治療・予防に関する研究、最先端がん発症・再発予防研究などの、多様かつ学際的な先端研究を推進し、公開講座や企業との人材交流により研究成果の社会への還元を図るとともに、国際交流を積極的に展開し、共同シンポジウムや研究交流を通じて、国際共同研究の推進や大学院生の国際力の涵養を図る。

<小児発達学分野>

○ 大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学のそれぞれの大学の長所を生かし、密接な連携・協力のもと、医学、心理学等により構成される既存の領域を超えた新しい研究領域である『子どものこころと脳発達学』による文理融合型の共通教育プラットフォームを、子どものこころに関わる人材に対して提供する。これにより、真に学際的で現在の社会の要求に応えうる指導者層や高度専門家を育成する。さらに『子どものこころと脳発達学』における高度先端的な研究を推進し、その成果を社会に還元することで、発達障害を初めとするこころの障害を克服し、子どもの健やかな育ちを科学的に実現することを目指す。